

「JAIA 輸入電動車普及促進イベント in 神戸」JAIA 理事長スピーチ原稿

皆様こんにちは。日本自動車輸入組合 理事長の上野金太郎でございます。

本日はご多忙のところ、「JAIA 輸入電動車普及促進イベント in 神戸」のオープニング式典にご出席頂き、誠に有難うございます。

また、経済産業省様、国土交通省様、環境省様、開催地であります兵庫県様、神戸市様、旧居留地連絡協議会様から、そしてメディアからは神戸新聞社様、サンテレビジョン様、ラジオ関西様からと、幅広くご後援を賜り、誠に有難うございます。

その他にも、本日は各国総領事をはじめ、総領事館の皆様にもお越し頂いております。

併せて、本イベントの開催にあたり、ご協力を賜りました地元企業の皆様、生田(いた)警察署様にも感謝を申し上げます。

さて、JAIA では輸入電動車の普及促進を図るべく、2021 年度から電動車の認知向上を目的としたイベントを実施しています。初年度は東京で、昨年度は大阪で、そして今年は神戸で実施いたします。

神戸を含む関西エリアは、登録乗用車に占める輸入車のシェアが高い都道府県ランキングトップ6に、兵庫・大阪・奈良・京都の4県が入り、また兵庫県では、芦屋市、西宮市、神戸市の灘区、東灘区、中央区のエリアで輸入車比率が2割を超えるなど、輸入車にとって重要なエリアとなっています。

JAIAの電動車イベントとしては初めての試みとなりますが、本イベントは政府関係者やメディアの皆様だけでなく、幅広くユーザーの皆様にも、JAIA会員の最新の輸入電動車の魅力に触れて頂く為、オープンな形でイベントを実施いたします。

電動四輪車だけでなく、燃料電池車や電動二輪車といった、幅広いラインナップをご覧頂けます。お手元の資料にもある通り、四輪から10社28台を、二輪から1社3台を出展しております。

また、本イベントの開催地である兵庫県様、神戸市様、旧居留地の地域の皆様と連携し、開催することから、三井住友銀行神戸支店様にもご協力賜り、地域連携ブースとして、三井住友銀行神戸支店前のスペースにおいて、カワサキモータースジャパンの電動二輪車なども展示しております。

本イベントの出展社を含めたJAIA会員各社の輸入EVのラインナップは2020年10月時点では10ブランド20モデルだったものが、2023年6月時点で16ブランド、95モデルと、モデル数は短期間で約5倍に拡大しており、会員各社が日本市場に対し積極的にモデルを投入しています。

その結果、輸入車のEVおよびプラグインハイブリッド車の販売も急拡大し、特に輸入EVは2022年通年として初めて1万台を超え、前年の約1.6倍となる14,341台と、着実に販売台数を伸ばしました。本年も1月から6月までの上半期実績では、9,239台と前年5,192台の約1.8倍と好調が継続し、年間では2万台の大台も見えて参りました。

外国メーカー車に占めるEVのシェアも、2019年には0.5%だったものが、2022年には5.9%と、4年間で10倍に拡大致しました。加えて販売店への急速充電器の設置なども進み、ユーザーの充電環境が急速に改善されつつあります。今後も日本において輸入EVのシェアが拡大していくことを確信しています。

これはJAIA会員各社がお客様のニーズに合わせてラインナップを拡充したことに加えて、JAIAからの要望にも応えて下さった政府による、電動車の購入や充電インフラへの補助金拡充のおかげでもあります。兵庫県様、神戸市様におかれましても、市・町とともに電動車導入の補助を頂いています。地方公共団体の皆様は自動車をご利用頂くお立場でもありますので、地域の企業・自治体の皆様の社用車・公用車について、本日展示されているような輸入EVも含めご利用頂くなど、皆様とともにカーボンニュートラル並びに持続可能な社会の実現に向けて取り組ませて頂くことも一案かと存じます。

また、東京都では電動車に対する補助金だけでなく、集合住宅等への充電設備普及促進事業や、公道での充電器設置も開始されるなど、今後このような充電環境の基盤整備が、全国においても進んでいくことを期待しております。

経済産業省をはじめとする各省庁の皆様、兵庫県、神戸市の皆様には厚く御礼申し上げます、また、今後も引き続きのご支援を頂ければ幸いです。

本イベントは輸入電動車の認知向上だけでなく、充電インフラやリサイクルなど、電動化に関する課題も意識したイベントとしており、お手元の資料にあるように充電関連企業 8 社、リサイクル関連企業 2 社にもご出展頂いております。

充電インフラについては、日本では特に、都心部における集合住宅での充電インフラの不足や、充電時間の短縮、充電性能の改善など、電動車の更なる普及を実現するためには、課題も残されています。

後ほど経済産業省様からもご紹介があると思いますが、6 月には政府による充電インフラの整備促進に向けた官民連携の検討会が立ち上がり、JAIA では、税制・補助金及び EV 技術に関するタスクフォースの合同会議体を新たに立ち上げました。ユーザーニーズを把握しながら、関係機関と連携して検討して参ります。こうした官民連携の取組みの結果、充電インフラ整備がますます促進していくものと期待しております。

さらに、電気自動車のリサイクル分野において、JAIA は会員インポーター各社が適切に車載用蓄電池の回収に対応できるようサポートしています。今回は JAIA の展示イベントとしては初めてとなりますが、リサイクル分野からも 2 社ご出展頂いております。

また、喫緊の課題ととらえているのが、自動車整備の人材不足です。電動車の普及に伴う新しい技術に対応できるような自動車整備の人材育成も欠かせません。

本イベントには、関西地区の自動車整備士養成施設の代表の方々をはじめ、多くの方にご来場頂いております。

最後になりますが、今回お集まり頂いた皆様に改めて御礼申し上げます。JAIA 会員はこれからも世界の幅広い車種を取り扱い、日本のお客様に多様な選択肢を提供することで、カーボンニュートラル実現のため、成熟した市場である日本における、電動車の普及促進に貢献して参ります。

是非とも皆様におかれましては、本イベントで多様な輸入電動車のラインナップ・魅力・価値を存分に体感いただき、関西地域の、ひいては日本のお客様に広く発信下さいますようお願い申し上げます。

これからも JAIA 及び JAIA 会員インポーターへのご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます、私からのご挨拶とさせていただきます。ご清聴ありがとうございました。

以上

皆様、おはようございます。ただ今ご紹介頂きました、経済産業省 自動車課 自動車戦略企画室長の田邊と申します。まず初めに、『JAIA 輸入電動車普及促進イベント in 神戸』の開催、誠にありがとうございます。また、本日はこのような場にお招き頂きまして、有難うございます。

日頃より上野理事長をはじめとする JAIA、またその会員企業の皆様には、多大なるご理解、ご協力を頂いておりますことを、この場をお借りして改めて御礼を申し上げます。本日経済産業省からは私の他に眞柳電池室長、また、政府の関係では国交省の多田課長、環境省の中村室長がお見えでございますが、僭越ながら代表致しまして私から一言、ご挨拶を申し上げたいと思います。

まず、自動車産業は大変大きな変革の時期でございます。CASE と呼ばれるデジタル化と電動化、環境対応というものが複合的に進む、いわば 100 年に 1 度の大転換期にあるということでございます。こうした中、自動車分野のカーボンニュートラルに向けましては、電動車の普及は勿論のこと、燃料の脱炭素化、また、それに関連するインフラの整備といった様々な技術、そして多様な選択肢を組み合わせながら達成しなければ出来ない、大変難しい課題だと考えております。先般 G7 が日本の議長国で開催され、札幌、広島で議論がなされ、こうした多様な道筋の重要性、多様な道筋を用いてカーボンニュートラルを実現することについて、大きな共通理解が得られたと考えております。

日本政府と致しましても、グリーンイノベーション基金をはじめ、電動車の普及に向けては、クリーンエネルギー自動車補助金、充電インフラの整備に向けてはインフラ整備補助金、そして、水素のステーションの整備と様々な予算措置を講じ、また関係各社の皆様と共に、様々な制度の見直しを含め取り組んでいる所でございます。こうしたカーボンニュートラルに向けた選択肢の一つとして、電動車は大変大きな役割を担っていると考えております。その普及に当たりましては、車両の普及とその為の充電インフラの整備が、いわば車の両輪であり、この本格的な電動車社会の確立に向けて、いくつかの大きな課題がまだ残っていると思います。

まず 1 点目につきましては、電動車の、まさに車のラインアップの拡充ということでございます。やはり消費者の皆様を選択して頂けるラインアップが増えることが重要であり、先ほど上野理事長からもお話がありました通り、輸入車の皆様、また国内 OEM の皆様も、蓄電池の調達、生産の拡充に併せまして、段々とラインアップが増え、また価格の低下ということも期待されている所でございます。より多くの電動車のラインアップが増え、そして手頃な価格となっていく中で、消費者の選択肢が増えてくるが大変重要だと考えております。

2 点目に、消費者の皆様の認知度向上でございます。多くの方はガソリン車とハイブリッド車はよくご存じですが、電気自動車そのものを見聞きしたことがある方は少ないと思いますし、更に言えば、その特性や使い方にもまだまだ認知が届いていない部分があると思います。そうした点におきまして、本日のイベントは初めて一般の方々にも電動車を見て頂けるイベントだと伺っております。是非、今日は天気も心配されましたが何とか持ったようでございますので、多くの一般の方々にラインアップを見て頂き、電動車を身近に感じて頂くことが、これから増えていく

きっかけになると期待をしております。

また、先ほどご紹介がありましたように、この神戸は情報の発信地であり、感度の高い地域と考えております。地元の自治体の皆様にもご協力頂き、神戸の地から情報が発信されることに大変期待をしております。

3点目は充電インフラの整備でございます。政府と致しましては、2030年までに公共用急速充電器3万基を含む15万基の充電インフラを整備する目標を掲げておりますし、併せて事業所、マンション等の集合住宅も含め、充電インフラ整備の助成をさせて頂いております。昨年度は65億円でありました補助金を、本年度は約3倍の175億円を措置してございますが、第1弾の募集が既に受付終了となり、大変力強い投資需要がある状況でございます。

本日は輸入車の皆様その他、充電インフラ関係企業の方々も多数ご参加頂いていると伺っております。政府の制度もご活用頂きつつ、また多くの皆様に充電インフラの使い方、整備の仕方、メンテナンスや維持費など、幅広くご理解を頂きながら、充電インフラの整備を進めていければと考えております。

電動車の普及に向け、様々な課題がある状況でございますが、本日のイベントを契機として、更に皆様と連携、協力を図りながら、ぜひ電動車の普及に取り組んで参りたいと思います。

最後になりましたが、本日のイベント開催のご成功とご参加されている皆様のご発展、ご健勝を祈念致しまして、私の挨拶とさせていただきます。本日は誠にありがとうございます。

JAIA 輸入電動車普及促進イベント in 神戸 挨拶要旨

日時：令和5年7月14日(金) 午前10時00分から10時30分

場所：オリエンタルホテル神戸 5F THE ROYALBALL ROOM

(神戸市中央区京町 25)

- 兵庫県環境部長の菅です。このたびは、「輸入電動車普及促進イベント in 神戸」が盛大に開催されますことをお喜び申し上げます。
- 関西では、昨年大阪での開催に続き、今年は兵庫県神戸市での開催であり、日本自動車輸入組合様の電動車普及イベントとして初めて街中で開催されるということで、非常に注目が集まるイベントになるのではと感じています。
- さて私ども兵庫県では、古くから大気環境改善のため、そして昨今ではカーボンニュートラル社会を目指す取組みの一つとして、次世代自動車の普及に取り組んで来ています。
- 昨年3月に見直しました「兵庫県地球温暖化対策推進計画」では、「2050年二酸化炭素排出量実質ゼロ」を目指しており、まず2030年度には、温室効果ガス排出量を2013年度比48%削減を目指す計画としています。自動車などの運輸部門では、2050年には自動車が電気自動車や燃料電池自動車に置き換わる姿を想定し、温室効果ガス排出量も、2030年度に国目標(34.8%)を上回る47.5%削減を目指すこととしています。
- また、2050年カーボンニュートラルとエネルギーの安定供給、経済成長を同時に実現させる新たなエネルギーとして、「水素」に注目しており、水素社会をリードしていけるような施策を県全体で進めているところです。この中で、水素社会を身近に感じられる拠点ともなる水素ステーションの整備や水素を燃料とする電動車である燃料電池自動車の普及促進にも力を入れています。
- 最近では、販売される電気自動車のラインナップが徐々に増えてきており、合わせるように街中でも電気自動車をよく見かけるようになってきています。環境に優しい次世代自動車が世の中で普及して行くためには、その選択肢が増えることが大切です。
- このイベントは、電気自動車だけでなく、PHEV、燃料電池自動車など多くの種類の車両を、神戸の街を訪れた県民の皆さまに実際に見ていただけるため、電動車の普及のためにも素晴らしい機会であると思います。
- 走行中に排出ガスを出さない電動車は、地域環境の改善だけでなく、カーボンニュートラル社会の実現においても、大きな役割を果たしていくものです。このイベントのご成功を祈念いたしますとともに、多くの県民の皆さまに電動車の魅力を感じていただき、電動車普及の機運が高まりますことを期待いたしまして、私からの祝辞とさせていただきます。

「JAIA 輸入電動車普及促進イベント in 神戸」オープニング式典 局長挨拶

○ただいまご紹介いただきました神戸市環境局長の柏木でございます。

本日から明日にかけて、「JAIA 輸入電動車普及イベント in 神戸」がこのように盛大に開催されますことを心からお喜び申し上げますとともに、神戸での開催にご尽力、ご協力いただきました関係者の皆様に感謝申し上げます。また、ご臨席の皆様には、日頃より神戸市政に多大なるご理解、ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

○さて、神戸市では、2025 年度に向けた神戸の目指すまちの姿を示すとともに、その実現に向けた施策をまとめた「KOBE 2025 ビジョン」において、「海と山が育むグローバル貢献都市」をテーマに掲げております。その都市像として、豊かな自然環境、国際性や多様性、芸術文化といった神戸の強みを活かしながら、震災を経験し、乗り越えてきたまちとして、市民一人ひとりが安心安全で心豊かな幸せを実感できる都市を目指しております。

○この都市像を目指す中で、カーボンニュートラルの実現に向けた取組は、重要な要素のひとつであり、神戸の豊かな自然環境を守り、育て、活用し、神戸ならではの暮らしを持続可能なものとし、次世代に引き継いでいけるまちづくりの実現を目指しております。

○この実現に向けては、省エネルギーの推進や再生可能エネルギーの推進など、さまざまな取組を進めておりますが、その中でも「電動車の普及促進」は欠くことのできない施策の一つでございます。

○電動車は、ガソリン自動車と比べて二酸化炭素の排出が少なく環境に優しいだけでなく、車両によっては駆動用バッテリーを用いた外部給電機能を有していることから、災害時の活用にも適しております。

○神戸市では、現在までに車両の配車に関する事業者との災害時連携協定や、停電時でも

稼働し、発電するごみ処理施設での車両充電による災害時給電サイクルの構築などに取り組んでおります。それに加え、避難所に指定されている全ての市立小中学校等に「外部給電・神戸モデル」への対応に向けた必要な施設整備を順次進めており、大震災を経験した神戸ならではの、電動車の災害時活用を通じた普及啓発を行っているところでございます。

○最後になりましたが、本イベントの開催が「電動車の普及促進」に繋がることを、また、日本自動車輸入組合ならびに本日ご臨席の皆様がますます発展されますことを心より祈念申し上げまして、簡単ではございますが、私のご挨拶とさせていただきます。本日はどうもおめでとうございます。